

第2回 TSUMUGU "BITO"

2014. 3. 14.



# 暮らしの幸せの作り方 ～障害児者を例にとって～



全日本手をつなぐ育成会  
「障害認識プロジェクト」@2009  
より一部引用

明星大学 人文学部 吉川かおり

# 1. はじめに

---

## (1) 自己紹介

障害児教育学(知的障害) → 社会福祉学(生活再建)  
→ 障害学(生活支援、家族支援)

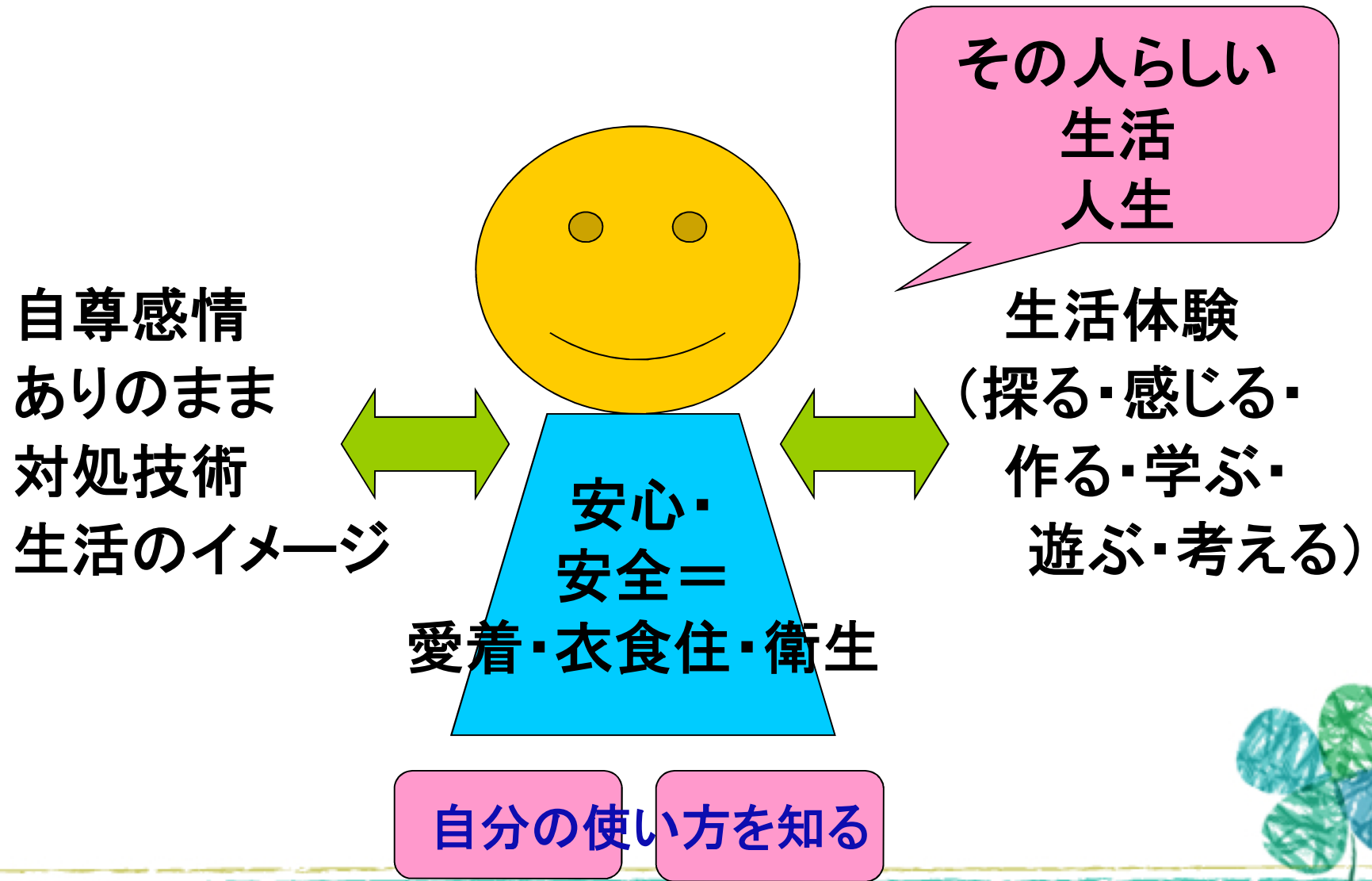
## (2) 今日伝えたいこと

- ① **生活問題だけ**を支えても、人の暮らしは支えられない  
⇒ **生活課題も含めて**支えることが重要
- ② 生活課題を見るとき**の視点**: **生活の構造的把握**
- ③ **関連要因**: **人間観、援助観。障害観、障害者観。**





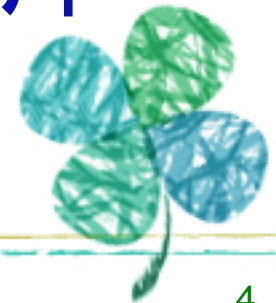
## 2. 生活の構造的把握





## 「暮らしの幸せ」を生み出す3側面

- **形で見えること**: 生活に必要なもの  
金銭・住居・衛生・食事・身づくろい・余暇、学習 etc...
- **形で見えにくいこと**: 人生に必要なもの  
ライフステージごとに取り組むべき課題  
選び方・決め方・責任の取り方
- **形に見えないこと**: 気持ち・アイデンティティ  
自尊感情・自己認識・心理的安定など



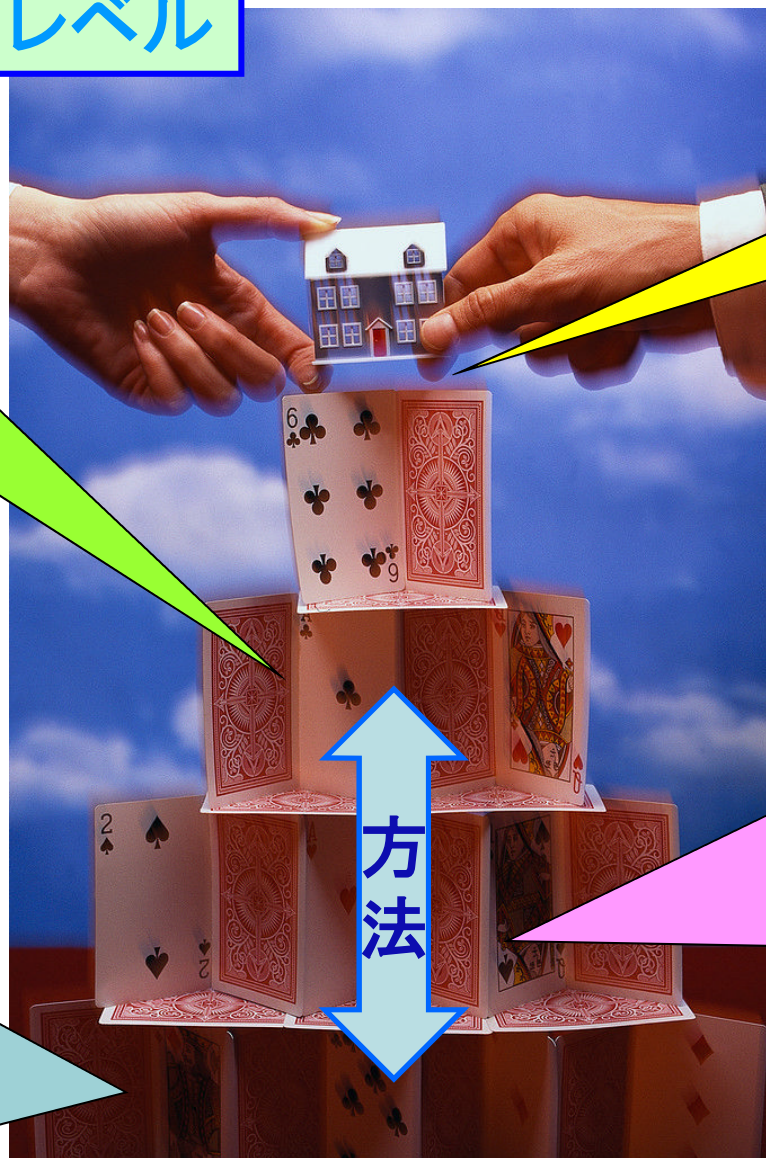
## 暮らしの3つのレベル

形に見えないこと  
(内面に培うもの)

自尊感情、自己認識、  
心理的安定、生活や  
人生の見通し

形で見えること  
(生活支援)

金銭・財産、住居、  
食事、保健・衛生、  
身繕い、余暇・学習、  
交流(人間関係)、異  
性交際・結婚、その  
他(当事者活動、信  
仰、帰省、モラル・マ  
ナー、多領域の事  
務)、就労



その人らしい  
暮らし

形に見えにくいこと  
(人生支援)

愛着形成、自己理解、  
生活スキル、就労ス  
キル、自己決定力、  
親離れ、援助の使用、  
大人としてのアイデン  
ティティ形成、加齢・  
死への対応  
etc.

## 形で見えにくいこと

\* ライフステージごとに取り組むべき課題

### ①乳幼児期＝ 家庭が安全基地になる

- 愛着形成
- 自分の身体の使い方を覚える
- 五感を通して外界の情報を取り入れ、情報発信をする
- さまざまな生活体験を積み、生活スキルを獲得する







## ②学齡期

### ＝豊かな生活体験による生活スキルの獲得

- 能力に応じた学習力の涵養
- 地域での人間関係を広げる
- 性を含めた自分の身体の状態を把握し訴えるスキルの習得
- 放課後や余暇の過ごし方を学ぶ
- 自身の心身機能の状態の理解（障害認識の初歩）
- サービス利用・選択の練習





### ③青年期以降＝大人としての生活の構築

- 大人としてのアイデンティティ構築
- 親離れするための生活スキルの習得と、サービス利用(練習も含めて)
- 労働・余暇・政治を通しての社会参加スキルの習得...例:社会性を含めた就労に必要なスキルの習得
- 障害の自己認識を深める
- 生涯学習の機会を得る
- 加齢・身近な人を含めた死への対応







### 3. 「暮らしの幸せ」の阻害要因

---

「障害がある」ことによって...

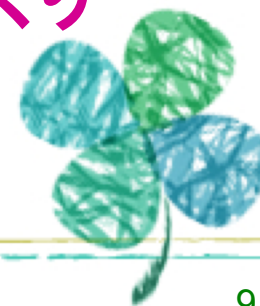
(1) 本人にとって安心・安全な環境がおびやかされやすい

① 親自身混乱する時期がある

② 家族の中に葛藤が生じやすい

③ 自分のおかれている環境を理解しにくい＝不安

⇒ その人に理解しやすい環境・条件づくり  
＝ 「障害」に応じた工夫 が必要





## (2) 本人の生活体験の幅が狭くなりやすい

### ① 本人自身の能力

⇒ 本人の発達段階と年齢相応の体験の  
「ちょうど良いところ」はどこか？

⇒ 本人の能力を物や人でどう補えるか？

### ② 親の理解

⇒ あきらめすぎず、期待しすぎずの  
「ちょうど良いところ」はどこか？

\* これらを探すための支援が必要  
＝「障害」とは何か





### (3) 本人が「否定的な自己像」を描きやすい

---

#### ① 本人の能力

- ・ 周囲から要求されることに応えられない体験
- ・ 人と比較して自信をなくす

⇒「あなたはあなたであっていい」「あなたには価値がある」ということをどうやって伝えるか？

#### ② 親や支援者の理解

- ・ 周囲がすべて決める(本人: 無力感)
- ・ 常に子どもとして扱う(本人: 大人になれない)

⇒周囲の人が、自身の「障害者像」を点検して見る必要がある



## 整理すると...

---

(1) 本人の能力を、補う方法

無理、と思わずに「可能性」を見出すには？

(2) 日常生活・社会生活への参加の方法

この「子」が「大人」になるために必要なことは？

(3) 本人が「価値ある自分」を感じる方法

家族にとっての幸せ、本人にとっての幸せとは？

⇒ 家族・支援者の「人間観・援助観」「障害観・  
障害者観」の点検を...もちろん本人のも！



# あなたの立ち位置は？どの状態を支援？

子どもと親：一体化

子どもの自我、少しずつ距離

